

会告

第 26 回（2023 年度）認定輸血検査技師試験の結果

令和 5 年 12 月 11 日

認定輸血検査技師制度
協議会 会長 加藤栄史
審議会 会長 河野武弘
試験委員長 加藤栄史

本試験制度は、一次試験を筆記試験、二次試験を実技試験とした。また、二次試験受験資格者は一次試験合格者とした。さらに、二次試験の採点方式も、加点方式であり、以前からの二次試験で大きく減点とされていた問題（血液型判定、可能性の高い不規則抗体同定など）を、一次試験および二次試験における必須問題とし、必須問題を全問正解することを合格の条件とした。また、必須問題は配点がなく、必須問題以外の問題を採点した。

【1】 一次試験（筆記試験）

1. 受験申請者数：230 名

実受験者数：224 名（辞退者 6 名）

2. 試験結果

- 1) 知識問題：平均点 65.0 点（最高点 92.0 点、最低点 33.3 点）
- 2) 臨床問題：平均点 74.0 点（最高点 97.1 点、最低点 42.7 点）
- 3) 2 科目合計：平均点 69.5 点（最高点 94.5 点、最低点 38.0 点）
- 4) 必須問題：正解者数 140 名（62.5%）
- 5) 合格者数：110 名（合格率 49.1%、110 名/224 名）
 - ・ 新規受験者：81 名（合格率 61.4%、81 名/132 名）
 - ・ 再受験者：29 名（合格率 31.5%、29 名/92 名）

3. 試験内容と講評

認定輸血検査技師制度第 26 回一次試験（筆記試験）は 6 月 24 日（土）、ベルサール神保町（東京）を会場に行われた。一次試験は知識問題と臨床問題の 2 科目で行われた。知識問題は試験時間が 90 分間で、マークシート問題と記述問題

とし、臨床問題は同じく 90 分間の試験時間で、記述問題とした。内容は輸血医学の基礎、輸血検査（基礎、血液型検査、不規則抗体検査など）、輸血に関連する臨床、計算問題、カラム凝集法やマイクロプレート法の検査問題などとし、症例問題として血液型判定、可能性の高い抗体同定については必須問題とした。難易度は昨年度の一次試験とほぼ同程度で、平均点は 69.5 点と昨年度の平均点（69.7 点）と同程度であった。ただし、血液型判定や可能性の高い抗体同定など、輸血検査上、過誤が許されない問題（必須問題）に対して 84 名（37.5%）が不正解であった。検査に関する基本的な理解を引き続き修得して頂きたい。

【2】 二次試験（実技試験）

1. 受験者数

- ・ 申請者 237 名の内、本年度の一次試験合格者が 110 名、二次試験のみが 127 名であった。
- ・ 実受験者数：235 名（辞退者 2 名）

2. 試験結果

1) 成績

- ・ 平均点：77.2 点（81.0 点）、最高点：96.5 点（99.0 点）、最低点：0 点（57.5 点）
（ ）は 2022 年度の成績
- ・ 血液型検査（平均点：87.2 点、最高点：100 点、最低点：0 点）
- ・ 抗体検査（平均点：66.8 点、最高点：100 点、最低点：0 点）

2) 合格者数

- ・ 合格者数：107 名（二次試験での合格率 45.7%、107 名/235 名）
- ・ 一次・二次総合での合格率：30.6%（107 名/350 名）

3. 試験概要と成績

1) 概要

認定輸血検査技師制度第 26 回二次試験（実技試験）は新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に分類されてからの初めての二次試験となった。5 類感染症に分類されて以降も、医学系大学では依然として外来者の人数制限などの規制があり、昨年度と同様に検査技師系大学を試験会場として実施した。試験日は 8 月 27 日（日）、東京工科大学（東京）、神戸常盤大学（兵庫）の 2 会場で行われた。申請者 237 名で、新型コロナウイルス感染症による辞退者

を含めて 2 名が辞退され、実受験者数は 235 名であった。

試験問題は昨年度から血液型検査、抗体検査（交差適合試験を含む）の 2 科目に減らし、1 科目の試験時間も従来通りとした。血液型検査は 4 題、抗体検査は 3 題とした。今年は遠心機の台数が充足し、抗体検査試験の時間延長の措置はとらなかった。

2) 実技試験の講評

全科目の平均点は 77.2 点と高得点であり、血液型検査、抗体検査の平均点は各々 87.2 点、66.8 点と抗体検査の平均点が低い傾向が認められた。また、2022 年度の平均点 81.0 点と比較しても大差がなく、難易度はこれまでとほぼ同程度と考えられた。ただし、これまでと同様に、二次試験の合格率が 45.7%と低迷していた。その要因として、必須問題の不正解者が 64 名 (27.2%) であった事が原因と考えられる。特に、検査の基本である検査対象患者の番号を誤って記載した受験者がわずかではあるが、認められた。受験者はもう一度、基本的な手技、手順などを復習する必要があると考えられた。

血液型検査に対する試験では、平均点が 87.2 点と高得点であった。多くの受験者は判定結果の解釈や、その後の検査や輸血の対応など必要な知識を修得していると考えられた。ただし、血液型判定（再検査を含む全ての検査判定）などの必須問題での不正解者が 30 名 (12.8%) も認められた。血液型判定検査は輸血関連検査の中で、最も重要かつ基本的な項目であり、もう一度、検査手順方法も含めて復習して頂きたい。

抗体検査に対する試験では、平均点が 66.8 点と血液型検査よりは 20 点ほど低く、必須問題の不正解者が 39 名 (16.6%) と昨年度より増加した。特に、抗体解離試験や直接抗グロブリン試験など基本的な手技を誤っている受験者が認められた。臨床検査技師にとって、検査結果の解釈やその後の検査、輸血の対応などの知識の修得も重要であるが、基本的な手技に関しては当然、修得すべきである。検査手順を含めて復習して頂きたい。

3) 試験結果の通知表記

今回、血液型・抗体検査試験の全てにおいて及第点を取得し、必須問題を正解した受験者が合格となる。評価ランクに関しては、必須問題が正解の受験者に対して、一定の基準にて A～F に分け、絶対的評価とし、必須問題不正解の受験者に対して、及第点の有無で G と H に分けた。各科目および総合で基準点以上かつ必須問題正解を A～C とし、合格者とした。必須問題正

解で基準点未満を D～F に分け、さらに、必須問題は不正解で基準点以上を G、基準点未満を H とし、D～H の受験者は不合格とした。

4. まとめ

昨年度に続き、複数会場で実施された二次試験であった。今年度は、昨年度の経験を生かして東京、兵庫の 2 会場で実施し、昨年度、抗体検査試験における遠心機不足の課題に対して、血液型検査と抗体検査の 2 グループに分けて同時に行う事で、受験者 1 名に 1 台の遠心機を確保する事ができた。今回の二次試験（実技試験）はこれまでと同等の平均点であり、合格率であった。ただ、必須問題の不正解で不合格になる受験者がやや増加し、基本的な手技、知識を再修得する必要があると考えられた。

【3】 第 26 回認定輸血検査技師試験の総合結果

1. 受験者数

- ・ 申請者数は 357 名で辞退者が 7 名で、実受験者数は 350 名であった。

2. 総合判定結果（一次・二次試験の総合判定結果）

- ・ 今回の試験を受験された受験者 350 名中、合格者数は 107 名（合格率：30.6%）であった。

3. 試験成績について

全体の合格率は 30.6%（107 名/350 名）で、2022 年度の 31.9% に比して、ほぼ同じ合格率であった。一次試験、二次試験ともに昨年度とほぼ同じ平均点、合格率であり、受験者が知識、手技ともに勉強されたものとする。但し、認定輸血検査技師として望む知識、手技などに到達されていない受験者が過半数以上を占めており、多くの受験者は、今後、更なる研鑽を積み、来年以降に多くの受験者が合格される事を希望する。